



肝付町長 永野 和行

令和2年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

町民の皆様におかれましては、日頃から温かいご理解とご協力を賜り、町行政が進展しておりますことに深く感謝申し上げます。

昨年は、広い範囲で大きな被害をもたらした台風19号の暴風雨など激甚災害が発生しました。肝付町からも長野県佐久市へ職員9名を派遣し、復興支援活動を行いました。被災された地域の方々にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

平成の30年間は「災害の時代」と言われ、令和の時代になってもなお、多くの自然災害が発生しています。町内では、昨年5月に内之浦で48時間雨量が573ミリという観測史上最大を記録し、県道岸良高山線の道路流出など3カ所の土砂崩れが発生しました。関係機関のご協力もあり、迅速な災害応急が行われ、復旧作業が進められています。また一方では、南海

トラフ地震等に備え、福祉会館へ蓄電設備の設置や津波避難タワーの整備を行いました。今年も、町民の安全な暮らしと自然災害に備えた取り組みを進めてまいります。

次に、私たちが豊かで幸せに暮らすためには、まず健康に気を付けなければなりません。怪我のときに身近で頼れる施設や病院も必要です。昨年は、子育て世代でニーズが高かった病後児保育施設が開設の運びとなりまし



運行中のおでかけタクシー

た。また、9月に公的病院の再編について国から一方的に発表がなされましたが、町立病院は、地域医療を担う拠点となっており、安心して暮らすために、なくてはならない病院です。採算性の議論のみにとらわれず、地域に寄り添う病院として、これからも運営してまいります。

現在、行政運営も大きく変わってきています。企業経営の感覚を持つことも必要です。コスト高になろうとも住民福祉を優先しなければならぬものもあります。受け身の行政ではなく、光通信網の整備や保育料無償化、AIおでかけタクシー事業のように、新たな施策をどこよりも早く取り組み、他の自治体に先駆けた充実したサービスを町民の皆様に提供するとといった挑戦も必要です。これからも皆様のお力添えを賜りますようお願いいたします。

令和2年が皆様にとって、健康で実りある良き年でありますようお願い、年頭のご挨拶いたします。